

調査・研修等計画届出書

令和 元年 10月 18 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 山田 治義 

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 元年10月29日から 月 日まで (泊1日) (10/30-31も高知県内へ視察有)
調査先・研修名	次世代施設園芸団地
会場名 (会場所在地)	高知県高岡郡四万十町本堂 707-58 四万十とまと (株)
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	<p>園芸王国高知に 2016 年、県内最大面積を誇る 4.3 h a の四万十町次世代団地 (次世代施設園芸高知拠点) が誕生した。</p> <p>従来型の約 3 倍となる軒高 6 m のハウスには、最新の統合環境制御装置が整備され、温度、湿度・二酸化炭素濃度といったハウス内環境が、コンピューターによって制御されている。</p> <p>県内の 3 事業者が、約 85 人を新規採用し、平成 28 年 7 月からトマトの栽培をスタートさせ、オランダの最先端の環境制御技術と地元の木質バイオマスエネルギーを活用して、従来の約 2 倍となる 10 a 当たり 38.4 t の収量を目指している。</p> <p>本市における野菜の栽培は、規模も小さく露地栽培が中心でハウス栽培は極めて少ない。露地栽培では収穫時期が集中し、価格も安価で農業経営するうえで大きな課題である。</p> <p>規模の拡大とともに、ハウス栽培によって年間を通した出荷が可能となることから、本市農業の参考にならないか調査・研修する。</p>
議長名の依頼	要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要
同行者名	山田治義・富田宗一・小沢勝・西本潤・長江公夫・三木雪実 戸田由久・宮菫伸仁・柴田利勝・高島淳・朝井賢次・11 名

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和 2年3月26日

瀬戸市議会議長 様

議員名 山田 治義



政務活動として、下記の通り調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 元年 10 月 29 日から 月 日まで (1日)
調査先・研修名	次世代施設園芸団地、
会場名 (会場所在地)	高知県高岡郡四万十町本堂 707-58 四万十とまと (株)
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	本市における野菜の栽培は、規模も小さく露地栽培が中心でハウス栽培は極めて少ない。露地栽培では収穫時期が集中し、価格も安価で農業経営するうえで大きな課題である。規模の拡大とともに、ハウス栽培によって年間を通した出荷が可能となることから、本市農業の参考にならないか調査・研修する。
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
園芸王国高知に 2016 年、県内最大面積を誇る 4.3 h a の四万十町次世代団地 (次世代施設園芸高知拠点) が誕生した。 従来型の約 3 倍となる軒高 6 m のハウスには、最新の統合環境制御装置が整備され、温度、湿度・二酸化炭素濃度といったハウス内環境が、コンピューターによって制御されている。 県内の 3 事業者が、約 85 人を新規採用し、平成 28 年 7 月からトマトの栽培をスタートさせ、オランダの最先端の環境制御技術と地元の木質バイオマスエネルギーを活用して、従来約 2 倍となる 10 a 当たり 38.4 t の収量を目指している。	

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

平成 26 年、次世代施設園芸導入加速度化支援事業として、補助金を活用し総事業費 27 億円（敷地整備を除く）で設立された。

クリーンな栽培環境

- ・衛生管理の徹底により、病害虫の持ち込みを少なくすることで減農薬栽培を実現した。

養液の再利用

- ・トマト栽培に使用する養液は殺菌したうえで再利用している。

エネルギーの地域内循環を実現。

- ・地域の木材から製造した「おが粉」を燃料として、ハウスの暖房用温水を供給している。

衛生的な環境で選果選別

- ・二重構造で外部を遮断し異物の混入を防いでいる。

調査・研修の成果・考察

（瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等）

補助金あつての設備であり、本市での対応は難しいが栽培方法については参考にすべき点もあつた。